

竹垣(四ツ目垣)制作について



図1 できあがりの記念撮影

この竹垣(四ツ目垣) (図1)は、東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科の学生及び大学院生 有志と 東京農業大学 オープンカレッジに参加された社会人の皆様が、造園科学科百周年記念事業(造園伝統技術の継承と開発のための国際的教育活動)の一環として造りました。東京都世田谷区の(株)オイコス庭園計画研究所 笹原様にご指導を頂き、延べ81名の学生及び大学院生、4名の社会人の皆様が参加しました。施工場所は、世田谷キャンパス 百周年記念講堂の東側です。お近くを通られる際には、ご覧いただければ幸いです。

2025年7月、「いぼ結び」を練習しました。翌日、親柱を立てて胴縁や立子を取り付けて、四ツ目垣を造りました。

四ツ目垣は、構造は簡単ですが、空間を明瞭に区切ります。一方で、透けて見えるので、圧迫感はなく、風通しがよいという優れた特徴があります。約10年程度は持ちます。

四ツ目垣の材料であるマダケは、天然から得られる材料です。そのため、一本一本異なり、また、竹の「もと」と「すえ」でも太さが異なります。しかし、工業製品にはない風情があります。胴縁を互い違いに使ったり、親柱の近くは太い立子を、離れると細い立子を使ったりすることによって、材料のばらつきを施工の工夫で美しく見せていることを知りました。

留学生(メキシコ、フランス)も参加しました。メキシコからの留学生によると、メキシコの学校には手芸の時間があるので、ロープの扱いには慣れているそうです。

四ツ目垣の制作を通じて、何百年も前の造園技術者が、伝統的な技術の中でどのように材料の特性を生かしたり、工夫したりしているか、の一端に触れました。



図2 作業前の説明



図5 「いぼ結び」の実演

東京と京都でやり方が異なる。
今回は東京流とした。



図3 (株)オikos庭園計画研究所 笹原講師による
説明



図6 「いぼ結び」を練習する



図4 留学生には英語で同時通訳

抽象的な説明に対しても留学生は理解が早い



図7 作業前の説明



図11 穴に土を戻していく



図8 親柱の穴を掘る



図12 突き棒で突き固める



図9 農耕地と違って土が硬い



図10 垂直を確認しつつ親柱を立てる



図13 留学生たちも伝統技術に挑戦



図14 水系を張る



図18 位置を合わせて胴縁を斜めに切る



図15 ときには離れてみることも重要だ



図19 丸い親柱に斜めに胴縁を取り付けるので、センスが必要



図16 胴縁や立子になる竹材



図20 次々に胴縁を親柱に取り付ける



図17 水平に留意し胴縁を親柱にとりつける



図22 シュロ縄を水でぬらす



図21 親柱に立子を結ぶ



図24 立子をいぼ結びで次々に結ぶ



たてこ

図23親柱の近くは太い立子を使う



図25 竹垣の前と後ろから立子を結びつける



図26 できあがり